

有 松

NO.82 有松まちづくりの会



◇白影絞り

白影絞りは縫い山だけを染め、地色を白く残すという技法です。通常縫って絞った部分が染まらずに他が染まるのが普通ですが、これは絞った部分が染まりあとは染まらないという染色技術も難しい絞りです。工程としてはまず柄の輪郭をつまみ縫い絞りで絞ります。その後絞り終えた白目を棒に螺旋状に巻いていく。このとき縫っていない部分をヘラで押し込み巻きつけていかなければなりません。現在では残念ながら白影絞りが絞れる人はいません。復活が待たれます。

解説：竹田 昌弘

「日本遺産のまち有松」の未来を考えよう

有松まちづくりの会副会長

加藤 厚

有松町史によると有松のまちは「起源は桶狭間の村が古く、1608年に有松がその支郷として東海道筋に開け、まもなく独立した村となった。」とあります。しかし、茶屋集落

としては、商売にも限界があり、そこで考えたのが絞り染めで、移住者のひとりである竹田庄九郎が、九州豊後の絞り染めの技術と手織木綿とを結びつけて考案したものと伝えられています。1641年尾張藩主へ手綱用の絞り染めが献上され、1681年には尾張藩より将軍家へ有松絞りの絹布の手綱が「九々利染」と名付けて献上され、格別の嘉賞を得たという。このようにして有松絞りはようやく全国に知られるようになったのです。

しかし、1784年に大火が起こり、村はほとんど焼失したが、藩の援助と村民の努力により20年後にはほぼ復興し、多くの家は火災に備えて茅葺を瓦葺に改め、構造も塗籠造り

として隣家との境には防火壁卯建を設けるなどしたので、豪壮な商家が建ち並ぶこととなり、今日まで美しい町並みが残されています。

「有松HISTORY」有松の語り部に聞くによれば、昭和30年に、名工大の城戸さんや、東大の稲垣さんによる民家調査が行われ、有松の町並みを守れと言われたが、有松の中で浸透しなかった。昭和40年頃には、朝日新聞の石川記者が来て、建物の保存の必要性を熱心に説き、やつと数年後、昭和48年に「有松まちづくりの会」が設立されました。昭和53年に有松と足助で第1回の全国町並みゼミを行い、それから、町並みをみんなで守る意識がめばえしました。そして、昭和59年に名古屋市が有松を町並み保存地区に指定する。その後、電柱、電線の地中化などで町並みが生まれ変わってきました。

平成28年、名古屋市は有松を伝統的建造物

群保存地区に指定。同年国の「重要伝統的建造物群保存地区」に選定となった有松で、第40回全国町並みゼミ名古屋有松大会を開催することができました。

次のまちづくりの会の目標は、服部豊前会長の日本遺産の認定に挑む決意表明が有り、決定。直ちに、有松日本遺産推進協議会を立ち上げ、締め切りまであと1年の厳しい挑戦となりましたが、無事申請することが出来ました。これまでの実績の評価、トップの大事に育んできた人脈、名古屋市と地元主要協力団体と密接に連携した結果、令和元年5月、国から「日本遺産」に認定されました。これは快挙です。名古屋市で最初の認定です。地域型単独では愛知県でも初めてです。これから3年間限定で補助金が国から交付されます。要望事項については、今度は主に日本遺産実行委員会に委ねられますが、文化庁の認定に係わる留意事項を加味した議論を望みます。会長の指針でもあるこれから30年・50年先を見越した、最初のワークショップは「日本遺産のまち有松の未来を考えよう」がテーマです。すでに1月から実施しております。是非ご参加ください。

2030年の有松

名古屋市長 菊池 文泰



2030年1月14日午前8時、リニア・エクスプレスは品川駅を音もなく動き出した。ミドリは二十歳の美大生。有松生まれの有松育ちだが、大学は東京へ進学した。今日は母校の有松中学校で行われる

成人式に出席するため、名古屋に向かっている。

成人式の女性といえば振袖姿が定番だったが、近頃はそうでもない。おばあちゃん是有松・鳴海絞りの振袖を着てほしいそうだったけど、それは別の機会に着るつもり。でも有松育ちとしては絞りにほだわりたい。そして選んだ晴れ着は絞りのスーツ。パリのモードで評判となった新しいデザインでミドリのお気に入り。伝統が守られ次の世代へ引き継ぐ一方で、伝統技法に基づいた新たなチャレンジも行われているのが有松のすばらしいところ。

40分で到着。新しい名古屋駅はサインと動線がわかりやすくなつて名鉄への乗換えもスムーズ。急行で15分、あわせて1時間ちょつとで有松駅に着いた。これってすごいと思う。

おかげで時間ができたので、東海道をまち歩きしていくことにした。

四百年以上続く有松の町並みは、重要伝統的建造物群保存地区に選定されている。子どもの頃から見慣れた風景だけど、帰ってくるたび新しい発見があるので、ついついゆったり歩いてしまう。日本遺産に認定されてからは、絞りミュージアムができ、町家を活用した飲食店・宿泊施設も増えて、年中賑やかになった。逆に車は人通りを避けてほとんど走らなくなり、ときおり自動運転の小型モビリティが観光客を乗せて通るぐらい。重伝建と日本遺産だから賑わいも当然と思われるが、ミドリは知っている。有松が元気なのは、地域のみなが伝統を守りながら魅力を創出・発信していくために、すごく努力しているおかげであることを。

切通しの角まで歩いて来た。小路案内看板がある。右に曲がれば有松天満社への参詣道。寄っていききたいけど、そろそろ時間なので中学校へ向かう。参拝はまた今度、秋季大祭には絶対来るから。だって山車まつりは車切りの迫力やかからくり人形、夜の提灯飾りなど見所満載なので欠かすわけにはいかない。

会場の体育館は懐かしい顔でいっぱい。「久

しぶり」と声をかけてきた幼馴染は、大学生ながら起業し、いまやツーリズム会社の社長さん。有松と桶狭間を中心に緑区を巡る着地型観光が人気で、セントレア2本目滑走路で増えたインバウンドをもっと取り込みたいと張り切っている。かくいうミドリも卒業後は自分の専攻を活かして絞りに関わる仕事したいと考えているし、ほかに有松のまちづくりに一役買いたいという同級生は大勢いる。要するにみんな有松が大好きなんだ。

「かんぱーい」成人式のお祝い会が始まった。幹事曰く緑区では乾杯酒は高酒のお酒と決まっているそうだ。酒蔵と有松のコラボで瓶のラベルには絞りの布が使われている。お酒の味はまだよく分からないけど、それだけで美味しく思えてしまう。楽しく語らっているうちに遅くなってしまった。日帰りのつもりだったけど今夜は実家に泊まっていこう。リニアなら午前の講義にも間に合うから。

ミドリはベッドに入って一日の出来事を思い返していたが、いつのまにか夢の中へ・・・成人式で区長が挨拶している。「有松には、絞り・町並み・山車という三つの宝がありますが、もう一つ大切な宝があります。それは『人』です。まちづくりはひとづくり。まちづくりを成功させるのは、そこにかかわる人の魅力に尽きると思います。有松にはそれが、さらに継がれ、進化する。有松の皆様これまでのご尽力に敬意と感謝を申し上げますとともに、更なるご活躍と未来の有松がますます活気にあふれ輝くことを祈念いたします。」

日本遺産のまち 有松の未来を考えるワークショップを開催

2019年5月、有松は「江戸時代的情緒に触れる絞りの産地」・藍染が風にゆれる町 有松」として日本遺産に認定されました。これを機に、30年後の有松はどうなっているのかをみんなで考えるワークショップを開催しました。

DAY1の2020年1月26日(日)には、総勢53人が「絞り」「町並み」「山車・まつり」の3つのコースに分かれて有松あないびとの会のガイドさんと一緒にまちを歩き、30年後、つまり子どもの世代に残したい有松の「お宝」を探して写真に撮影し、参加者同士で共有しました。また、ワークショップ案内役である愛知学院大学総合政策学部の村田尚生准教授から、お宝を未来に残すためのヒントとして、以下の4点についてアドバイスをいただきました。

①空間の履歴…人と空間がどのような関係を結んできたかという過去のできごとの蓄積。子どもたちがどんな経験をし、このまちに履歴を残すのが価値になる。

②不易流行…不易（永遠に変わらぬ本質的な感動）と流行（ときどき新味を求めて移り変わるもの）、どちらかだけにならないことが重要。

②家業と継業…有松には地域産業である絞りを中心に、家業を継承したり継業（ヨソモノ視点で再価値化）することで、次の代にコミュニケーションを維持できる。

②多様性（ダイバーシティ）…自分とは違うものにも価値があることに気づき、単に知るだけでなく理解しようとコミュニケーションす

ること。

DAY2の2月22日(土)には、祇園寺を会場に総勢36人が集まり、カフェのようにお茶やお菓子を食べながら、そして席替えしながらリラックした雰囲気です。語り合う「ワールドカフェ」形式で、以下の3つのテーマのもと、有松の可能性について語り合いました。

最初は【有松にある空間の履歴】をテーマに、有松のまちで「経験したこと」「感じたこと」など記憶に残る大切な出来事を場所と関連させて話し合いました。続いて【有松の未来に残したいタカラ】をテーマに、「もの」だけでなく「ひと」や抽象的な「こと」を含め、なぜ未来に残したいのかを話し合いました。最後に【有松のまちとのかかわり方】をテーマに、これから自分是有松のまちとどう関わっていきたいか、また他の人にどう関わってもらいたいのか、どうすれば関わってもらえるかについて話し合いました。

そしてワールドカフェを振り返り、全体で共有する「ハーベストタイム」では、以下のようないきいきが発表されました。

- ・「来てみたらよかった有松」という声を初めての方から得られたが、「行ってみたい有松」となるよう、地元の皆さんが「有松をどうしたいのか」をまずは発信してほしい。
- ・絞りをやってみて、きれいな模様が出てきたのが面白かった。
- ・「お祭りに行った」という記憶があるのがう

らやましかった。

・「閉鎖的」なのも特色。有松を他のまちと同じにしてはいけない。

・有松は、年配の人が若者の意見を求めているのが新鮮で入りやすかった。

・街道沿いとどめず、広がりをもつて有松のまちのことを考えたらいい。

・有松絞りは知っていたが、町並みのことは知らなかった。「知らないということはゼロ」。最後に、案内役の村田准教授からは、以下のような講評をいただきました。

●「閉鎖的」という発言が多かったが、排除しようとしているわけではない。

●「誇り」「覚悟」が敷居を高くしているのではないか。

●一朝一夕で育つものではないので、子どものころから育てていかないと。

●これまでもいろんな柔らかな動きから「誇り」「覚悟」を育ててきた。今の時代に合ったやり方ですすめていけるといい。

来年度も引き続き、「有松の未来を考えるワークショップ」を開催する予定です。有松に住んでいる方だけでなく、有松に興味がある人、有松で何かしたい人も含めて、いろんな世代・価値観を持つ人が集まって議論できる場に、ぜひご参加ください。

（有松日本遺産実行委員会 武馬 淑恵）



「ありまつ」のれん

私の記憶が正しければ「ありまつ」のれんの最初の計画が持ち上がったのは、今から15年前の2005年に行われた愛知万博の年だったと思います。この地に大勢の観光客をお迎えするのに何か町全体を飾れる物がないかと探していた所、幕とのれんを作ったらしい企画書を提出しました。その時点では東海道の各店舗の名前入り垂れ幕とのれんの製作を考えておりました。最終的には統一出来る物としてのれんに決定しました。そして「ありまつ」のれん第一号が完成したのです。

今回は日本遺産の記念事業として新たに製作し統一ロゴマークを付ける事になりました。日本遺産の町であることを来町者と地元の人と共に認知して頂くために、広告塔としての



意味があると思います。15年前に始めたのれん製作が再び脚光を浴びる素晴らしい事業に携わる事が出来、大変光栄なことだと思っております。

有松絞商工協同組合

山田 剛生

有松のために

「令和元年5月、有松は「日本遺産」の町として認定され、日本全国のみならず世界に向けて有松ブランドの旗印を立てることになりました。以来、かねてよりお引き受けしている有松観光案内所に、日本の方はもとより、世界中のインフルエンサーや観光関係者等々からお問い合わせが相次ぎ、予想以上のペースで多くの方々から有松へ来られました。私共は、心を込めて有松の素晴らしさをお伝えすることに努め、数多くの取材には、①有松のためになるか？②絞りの明日のためになるか？を基準として、全力でおもてなしを致しました。



また、有松独自の絞りや、その文化を広く多くの方に知って頂こうと、有松日本遺産の構成文化財のパネルやパンフレットを作成、外国人のお客様に絞り体験をスムーズにして頂くためのパネルも用意しました。更に、有松の絞りについてより深く体感して頂こうと、絞り技術者による「絞り塾」の開催も致しております。貴重な藍染作品を有松の町家で展示する「まちなみ美術館」や、全国各地で活躍の染織専門家の先生方をお招きしての講演会は、4月以降に延期とさせて頂きましたが、「有松のため」になることを今後も取り組んで参りますので、ご支援お願い致します。

特定非営利活動法人コンソーシアム有松

理事長 中村 俣子

世界中に有松ファンを

2003年、有松あないびとの会は有松を訪れる皆様へ町並みのご案内をさせて頂こうと発足しました。今では年間に6000名ほどのお客様に有松のまちのご案内をしています。

近年は、外国人のお客様も増え、外国語での対応も必要となってきました。

そこで、昨年からは、外国語でのおもてなし講座を、外部講師をお招きして実施しています。今のところ英語・中国語・ハンゲル。挨拶や、町並み案内時の安全を最優先に、常におもてなしの心を持ち、臆せず外国語で話したいと思って皆で取り組んでいます。

また、毎年の有松絞りまつりの催しのひとつ、小冊子の「有松よもやまばなし」も私達・有松あないびとの会が編集を担当しています。毎号8話からなり、2019年第35回有松絞りまつり時で22号を数えました。有松に関わる17話のよもやま話が綴られています。このささやかな伝承、有松の文化を一冊の本にして、後世にも伝えていきたいと、現在、冊子化を進めています。そして、これからも有松の日常を掘り起こしアンテナを高めていきたく、編集を続けていきたいと思っています。

有松あないびとの会

加藤 明美



第42回全国町並みゼミ川越大会

+プレイベントin谷中 参加報告

1月30日(木)全国町並みゼミ プレイベントin谷中のまち歩きとトークセッションに参加しました。トークセッションでの「点から面へのまちづくり」と「歴史的建物の保全活用から文化再生」、「まちと暮らし建物を住み継ぎ活かす仕組みを考える」ことが参考になりました。
1月31日(金)〜2月1日(土)全国町並みゼミ川越大会

・1月31日 ガイドの方とまち歩きし川越のまちづくりの今をみて、その後第3分科会(景観まちづくりがもたらしたものの住民と来訪者の良好なあり方とは)に参加しました。第3分科会では「町家や町並みが単なる消費財やうわべだけの観光資源になってしまっている」、「次世代に向けて町全体と中身をどの様にしていくかを考え、実行することが大切」との意見がありました。

・2月1日 陣内秀信先生の基調講演「歴史都市を活かしたまちづくり〜イタリアとの比較とこれからの日本・川越〜」を聞きました。
今回の全国町並みゼミに参加して得たことを有松のまちづくりに生かしていこうと思いました。

次回第43回全国町並みゼミ真壁大会は、茨城県桜川市で2020年9月19日(土)〜20日(日)の2日間開催されます。
(山田修生)



晩秋の有松を楽しむ会2019

―時をこえた美しさ―

2019年11月9日(土)10日(日)の2日間、有松の歴史ある町並み・町家において、「いけばな」「きもの」「お茶」などの伝統文化にちなんだ様々な展示・イベント等を実施する「晩秋の有松を楽しむ会2019」を開催し、天候にも恵まれた中、延べ約3,800人の方にご来場いただきました。

今回は、平成から令和へと新たな時代の節目を迎え、また5月には「江戸時代の情緒に触れる絞りの産地 藍染が風にゆれる町 有松」として、有松が日本遺産に認定されました。そこで、晩秋の有松を楽しむ会2019のテーマを【時をこえた美しさ】とし、有松が培ってきた伝統の美しさを感じることができ、企画を用意しました。

メインイベントとしては、有松絞りが施された十二単の着物を用いて「令和のかぐや姫伝説」と題した着付けショーを開催しました。また、いけばなと絞りのコラボ作品をはじめ、東海道沿いの町並みには彩り豊かないけばなの作品が並べられ、着物での散策が楽しく、まさに写真映える風景となりました。そして町家の中では、有松に魅せられたプロミュージシャンによる音楽ライブや、名古屋市文化財に指定されている茶室でのお茶席など、まさに芸術の秋を堪能していただけたと思います。

これからも、「晩秋の有松を楽しむ会」を通じて、有松内外の多くの方に町並みや伝統文化の魅力を発見・発信していただき、有松の文化的環境の向上を図り、まちの活性化を目指していきます。

<https://armit-autumn.com/>

(晩秋の有松を楽しむ会実行委員会 武馬淑恵)

有松吟行 令和元年秋

江戸時代より有松は、東海道を通行する旅人達に東海道一の美観と称され、有松の絞りや町並みを賞讃する詩歌や旅行記がたくさん残されています。

昨秋、吟行に訪れてくださったグループの作品をご紹介します。

浜松 白魚火梧桐句会

しらおびあおぎり

きりきりと絞る鹿の子や秋日濃し	牧沢 純江
虫籠窓少し開けあり菊日和	大澄 滋世
芙蓉咲く絞りの街の深庇	西沢 三千代
ありまつの絞りの暖簾さやけしや	岡部 章子
深秋のポケット多き旅鞆	高井 弘子
鶏鳴の熱田神宮秋深し	高井のり子
秋晴れの城下を覗く鉄砲狭間	金原 恵子
晩秋のただたかくる糸括り	磯野 陽子
門ごとに有松絞り爽やかに	高田 絹子
手庇で仰ぐ税や鯛雲	野沢 建代

月見が丘句会

老舗守るのれん潜れば涼新た	久代
秋刻む古き民家の掛け時計	富雄
秋祭り終へて山車庫の佇まい	こうじ
爽やかに有松絞り着こなせり	ヒロシ
絞り染め古町そぞろや秋半ば	正泰
仲秋の風を迎へる虫籠窓	紀彦
阿波の柚子浮かべ楽しむ湯浴かな	昭一郎
絞り柄町の歴史と人の性	オウネ
のれんゆれ絞りときこむ赤とんぼ	壺加八
古松の梁の門口ススキの穂	滴雨



街角ウォッチング ⑪

桶狭間・地蔵池

「何時になく暖かい冬だね。」と言いながらも、2月に入っつての冷え込みは厳しいものでした。大高緑地の梅も終わり、桜の季節となりました。地蔵池の桜も毎年りっぱに花を咲かせて有松一の名所となっています。

この地蔵池は江戸時代の古地図には鳴海道池として描かれています。鳴海方面に通ずる道沿いに位置することから鳴海道池と呼ばれていたようです。鳴海から長坂道を通り、桶狭間・横根・刈谷方面へと通じていたのです(「天保村絵図解説版」)。秋祭りには神馬の行き来もあったそうです。この辺りは川が少ない

ので、ため池が多く作られました。この地蔵池も農業用水として大切な役目がありました。今は、地蔵池から大池を通り水は鞍流瀬川へと流れています。

(浅野康子)



有松まちづくりの会 総会

◆日時 5月15日(金)13時30分より
◆場所 有松・鳴海絞会館

講演会も予定しています。

町並み研修会

◆日時・行先 未定(秋に実施予定)

第36回 有松絞りまつり

◆6月6日(土)・7日(日)

テーマ 「Arimatsu Blue

〜日本遺産にあいにきて〜」

アリマツキーケット

―ものづくり文化に触れる体験型マーケット―

◆日時 6月7日(日) 10時〜16時

◆場所 有松天満社

<http://arimatsu-ket.com>

まちなみ美術館

◆4月25日(土)〜5月10日(日)

貴重な古い藍染めの絞り着物や現代の創作絞り藍染め作品を有松の町並み建造物にて展示。

◆主な来訪者◆

(有松あないびとの会(ご案内分))

- ・東近江市観光ボランティアガイド協会
- ・宇陀市観光ボランティアガイドの会
- ・旅人企画・東海道を歩く
- ・木祖村建設協議会
- ・岸和田地区保護司会
- ・小林豊子きもの学院
- ・名古屋やつかめ文化祭
- ・越中街道町並み保存会
- ・愛知県女性団体連盟
- ・東京クラブツーリズム・ミステリーツアー
- ・香川 穴吹トラベル・ミステリーツアー
- ・刈谷法人会 高浜支部
- ・熱田法人会 有松支部
- ・AGGN愛知善意ネットワーク有松研修
- ・知多市ボランティアガイド育成講座
- ・有松日本遺産ワークショップ
- ・金城学院大学 ・名古屋市立大学
- ・有松小学校・桶狭間小学校・有松中学校
- ・地域プランニング研究所(海外の旅行会社の皆様)

訃報

山田峯夫様

令和元年12月7日ご逝去(享年90歳)

会報有松の編集、短歌のご寄稿も多数。参与として会をお支え頂きました。

謹んでご冥福をお祈りいたします。

編集後記

「令和初」の春、新型コロナウイルスの影響で、うららかな気持ちは一気に吹き飛ばされました。昨年、日本遺産に認定された有松の春を、日本各地はもちろん諸外国の皆さんにも楽しんで頂こうと様々な催しが企画されましたが、ほとんど終息後に延期です。

今まで幾多の困難を乗り越え、先人が繋いできた有松のまち。私たちも、少しでも先に延びた喜びの時を皆で迎えられるよう力を蓄えましょう。「あんなことあったね」と笑って話せる時が早く来ると信じて。(加藤明美)

企画編集

(加藤一成・長塚啓・福岡友一・伊藤総俊) 会報有松は、有松まちづくりの会ホームページに掲載しています。「有松のまち」で検索。

<http://www.arimatsunomachi.com/>

〈有松まちづくり憲章〉

私達は、先人から受け継いだ有松のたからものを守り、次世代に届けるために、この憲章を定めます。

一、有松の町並み・絞り・山車を守り、誇ります。
一、人と人がつながり、ぬくもりのある有松を創ります。

一、有松の歴史や物語を学び、遊び、伝えます。

有松まちづくりの会

二〇二〇年三月三十一日発行 (年二回発行)

〒458-0924 名古屋市緑区有松三〇一二(有松商工会内)
TEL (052) 621-0178
FAX (052) 622-7401